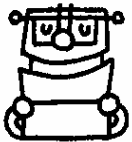


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /  
大地のしくみ / 理解シート

## ちそう 山の上の地層で、貝がらが見つかるのはなぜなの



昔海底だったところが、大地の変化で、長い間にもり上がって、山ができたためさ。

大地は、水のはたらきか、火山活動でできてきた

地面の下の大地は、火山活動でふき出した火山灰<sup>かさばい</sup>や、岩などがふり積もってできたり、川の水が運ぶどしゃなどが積み重なってできています。

火山活動でできた地層には、ごつごつした角ばった石や、小さいあながたくさん開いて軽石が混じっていることが多いものです。

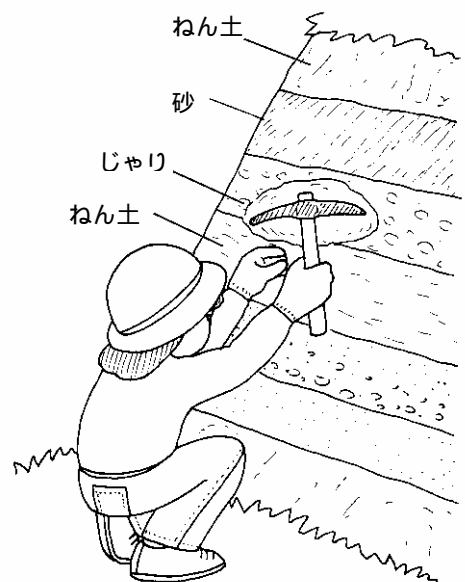
水のはたらきでできた地層は、角が丸くなった石が多く、たいてい、じゃり、砂<sup>すな</sup>、ねん土のように、重さの順で地層が重なってできていて、貝がらや木の葉の化石などが見つかることもあります。山で貝がらの化石がたくさん見つかったなら、その地層は、昔は海底だったといえます。

大地は、いつも少しずつ変化している

大地は、地球の内部の強い力で、いつも引っぱられたり、おしつけられたりしています。両側からおしつけられ続けた地層は、もり上がって山ができてたりします。また、海底火山のふん火で島ができてたり、海底がもり上がって高い山になることも、めずらしくないのです。

山は、雨水や風にけずられ続けて、だんだん低くなってしまいうものもあるし、おし上げられてどんどん高くなっていくものもあります。

今の日本列島のほとんどは、昔は海底だったところが、おし上げられてできたものです。



川の水がつくった地層